

ぼうさい通信 64号



毎月16日は「防災教育啓発の日」

令和5年3月16日発行
熊本県立湧心館高等学校

日本の国土について理解し、減災を心懸けましょう

奇跡の大地 日本列島

驚くほど表情豊かな四季、国土の真ん中にそびえる 3000m 級の険しい山々、流氷からサンゴ礁まで、様々な表情を見せる美しく豊かな海、そして、密集する 110 もの活火山。こんな場所は地球上に日本列島しかありません。一例を挙げましょう。日本を訪れる観光客は、日本の紅葉に感嘆の声を上げます。それは日本の紅葉がヨーロッパのそれと比較にならないくらい色様々で鮮烈であるからです。ヨーロッパの植生は単調で、高等植物は 2000 種ほどしかありません。日本は狭い国土に 6000 種ほどが存在します。日本を訪れる観光客は、豊かに湧き出す温泉を楽しみ、色鮮やかで、素材の味を生かした繊細な味わいの日本食に感嘆の声を上げます。それらも全て、箱庭のように起伏に富み、水豊かな日本の自然が生み出すものです。



日本の自然とともに生きる 「減災」への取り組み

このような国土は、四つのプレートが押し合うユーラシア大陸の東側で形成されました。造山運動で作られた山々や、山々が沈降することで出来た多くの島々は、我々に豊かな自然の恵みをもたらします。一方で、地震や津波、豪雨などの災害ももたらします。この国土に住む人々は、自然の恵みに感謝し、自然を恐れ生きてきました。そこから学ぶことは「天災は忘れた頃にやってくる」ということ。何時起きてもおかしくない災害について、常に考え、常に備えることです。「減災」という考え方がありますが、それは「災害によって被る被害を最小限に抑える」ということです。政府（内閣府）は減災のポイントとして、①自助・共助 ②地域の危険を知る ③地震に強い家 ④家具の固定 ⑤日頃の備え ⑥家族での防災会議 ⑦地域とのつながり の7つを示しています。南海トラフ地震、首都直下地震、日本海溝・千島海溝地震など、巨大地震が想定され、行政も様々な減災対策を立てています。私たちも、②④⑤⑥など、すぐに取りかけられることには取り組み、備えなければなりません。この奇跡の国土に住む人間として。

【文責 通信制防災担当】



ここをチェック↑